

## 第2章 将来都市像

### 1 都市づくりの基本目標

#### (1) 第2次さくら市総合計画における将来都市像

##### ◎まちづくりの基本理念

- ・持続性のある自立した行財政基盤を確立し、安心して暮らせるまちづくり  
－さくら市での暮らしを楽しめるまちづくり－

##### ◎将来都市像

- ・「安心して暮らせ、地域・ひと・ものを結ぶ、魅力いっぱいのまち」  
－健康・里山・桜の小都市－

##### ◎まちづくりの方向

- ・自立した行財政の確立（持続可能性、自立、協働の視点）
- ・まちづくりの基本は人づくり（学習・教育の視点）
- ・いきいきと生活を楽しむまちづくり（ゆとりある生活空間、地域文化の視点）
- ・活力と魅力にあふれるまちづくり（産業、中心市街地、観光、交流の視点）
- ・環境にやさしいまちづくり（環境保全の視点）
- ・人口減少社会への対応・取り組み推進（地方創生の視点）

#### (2) 都市計画マスタープランにおける将来都市像の基本目標の設定

[基本目標設定のための視点]

##### 【視点：将来の広域的な位置づけ】

- 広域の交流・連携の活性化
- 地域産業の発展の誘導
- 周辺市町における中心性（新たな地域連携の要）

##### 【視点：都市づくりの方向】

- さくら市としての持続可能性・自立
- 安心・安全な住環境づくり
- 豊かな自然環境の保全
- 活力を育む環境づくり

《 将来都市像のテーマ：イメージ 》



次代へ花開く“さくら” <sup>は</sup>活力と魅力に栄える 自立・定住・交流 のまち

- ・『次代へ』とは : 次の世代への継承、持続可能なまちづくり
- ・『花開く』とは : 様々な取り組みの成果やまちづくり効果の発現
- ・『活力』とは : 市としての自立性、周辺市町との活発な連携・交流、周辺市町における高い拠点性、特色のある産業の振興、まちの賑わい
- ・『魅力』とは : 快適な暮らしを支える環境、より多くの人々が安全・安心に暮らせる環境、人の気持ちを引きつける資源、豊かな水・緑の環境
- ・『栄える』とは : 誇りのもてる個性・特色がひとときわ目立つこと

《 都市づくりの柱 》



#### ①自立環境づくり

自立を支える都市の基盤や産業発展につながる環境の整備

#### ②定住環境づくり

定住を受け止める居住環境や水・緑のうるおいのある環境の充実

#### ③交流環境づくり

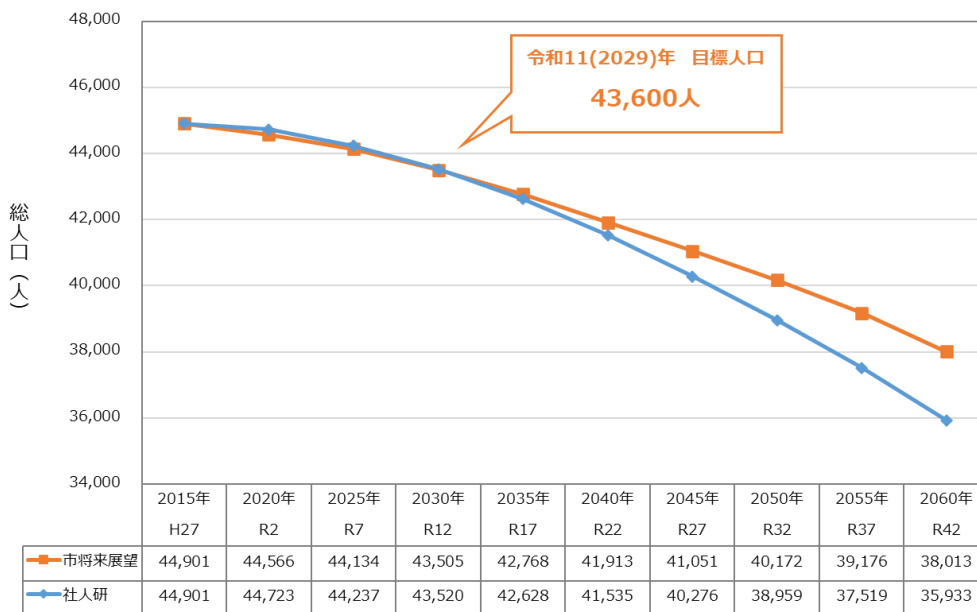
交流を促す様々なつながりや人々のふれあいを育む環境の形成

## 2 将来人口の想定

[総人口の目標値：令和11（2029）年 43,600人]

- 本市の将来人口（総人口）は、中長期的な人口の将来展望を示す「さくら市総合計画基本構想」に準拠し、令和11年（2029年）の人口を43,600人とします。（※目標とする将来人口は、「さくら市総合計画基本構想」の将来展望に基づき、令和7（2025）年から令和12（2030）年の総人口が均等に推移するものと仮定して算出しています。）

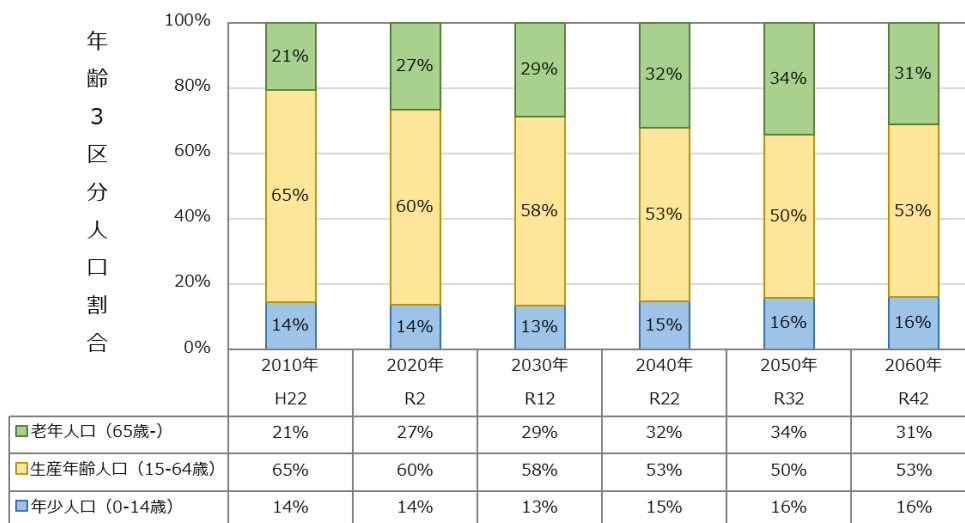
《 図：さくら市の想定する将来人口の推移 》



注) 社人研：国立社会保障・人口問題研究所

出典) さくら市総合計画基本構想

- 総人口に占める年齢3区分別人口の割合をみると、年少人口（15歳未満）は将来的には緩やかな増加傾向、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は減少傾向、老年人口（65歳以上）は増加が進むなか令和32年以降は減少傾向に転じる予測となっています。



出典) さくら市総合計画基本構想

### 3 将来都市構造

#### (1) 将来を見据えた都市づくりの視点

##### ■ 基本的な考え方

- さくら市の自立性や中心性の向上に資する機能が集積する各種拠点・ゾーン・エリアの形成
- 周辺市町や各種拠点間の連携・交流を高め都市力の強化を促す軸の形成
- 既存の都市の構造（丘陵・田園・集落・市街地等）やストック（都市基盤施設、住居・商業・工業の立地特性等）の継承



##### ① 地域産業の中心となる産業基盤の形成

- ・ 既存の工業団地（喜連川・蒲須坂）における工業生産系機能の集積・強化
- ・ 新規工業地における研究開発系機能の集積・強化、新たな企業立地動向への適切な対応
- ・ 東北道矢板 I C 及び上河内 S I C 方面や先端産業・研究開発機能を有する周辺都市（さくら市以南・以東）との円滑な連絡性の確保

##### ② 活発な都市活動や人々の交流を支える諸機能が集積する都市環境の形成

- ・ 2つの市街地（氏家・喜連川）の相互に不足する魅力・機能の補完
- ・ 多様な軸（主要な道路の軸、公共交通の軸）の連携による各種拠点等の一体化
- ・ 2つの市街地相互の連携・交流を高める基軸の整備
- ・ 氏家市街地における賑わいにつながる市街地環境の整備やさくら市の中心としてふさわしい質の高い空間づくり
- ・ 喜連川市街地におけるゆとりとうるおいのある市街地環境の整備や観光を軸とした交流の受け皿づくり

##### ③ 地域連携を支える交通網の形成

- ・ 広域や周辺市町との連携を強化する道路交通網の形成

##### ④ 多様な居住ニーズに対応した定住環境の形成

- ・ 2つの市街地（氏家・喜連川）における良質な住環境の形成
- ・ 優良な集落環境の保全
- ・ 新市街地（上阿久津台地地区）や大規模住宅地（フィオーレ喜連川・桜ヶ丘）における特色のある居住環境の形成
- ・ 就業の場（近接する宇都宮方面、さくら市内の工業団地）との良好な連絡性の確保

##### ⑤ コンパクトシティの形成

- ・ 様々な機能を持つそれぞれの魅力あるまちが、道路や公共交通などによりしっかりと結ばれ、誰もが生活に必要なサービスを利用しやすい都市の形成
- ・ 2つの市街地（氏家・喜連川）の特性を踏まえた多様な生活サービス機能の充実・強化、より多くの人々が歩いて暮らせる環境づくり
- ・ 日常生活圏（市街地・新市街地・大規模住宅地・集落地）に応じた暮らしの快適性や利便性の確保（近接する市街地等との容易な移動性の確保）
- ・ 将来的に持続可能な都市形成（コンパクトシティ+ネットワーク）の実現を図るため、立地適正化計画の策定の検討

##### ⑥ 災害に強い都市構造の形成

- ・ 防災上危険な密集市街地や消防活動困難区域の解消に向けた、道路、河川、公園、水路等の公共施設の総合的かつ一体的な整備による災害に強いまちづくり（土地区画整理事業等の面的整備事業の推進による防災都市づくり、防災機能を有する施設の整備、火災に強い都市構造の形成など）

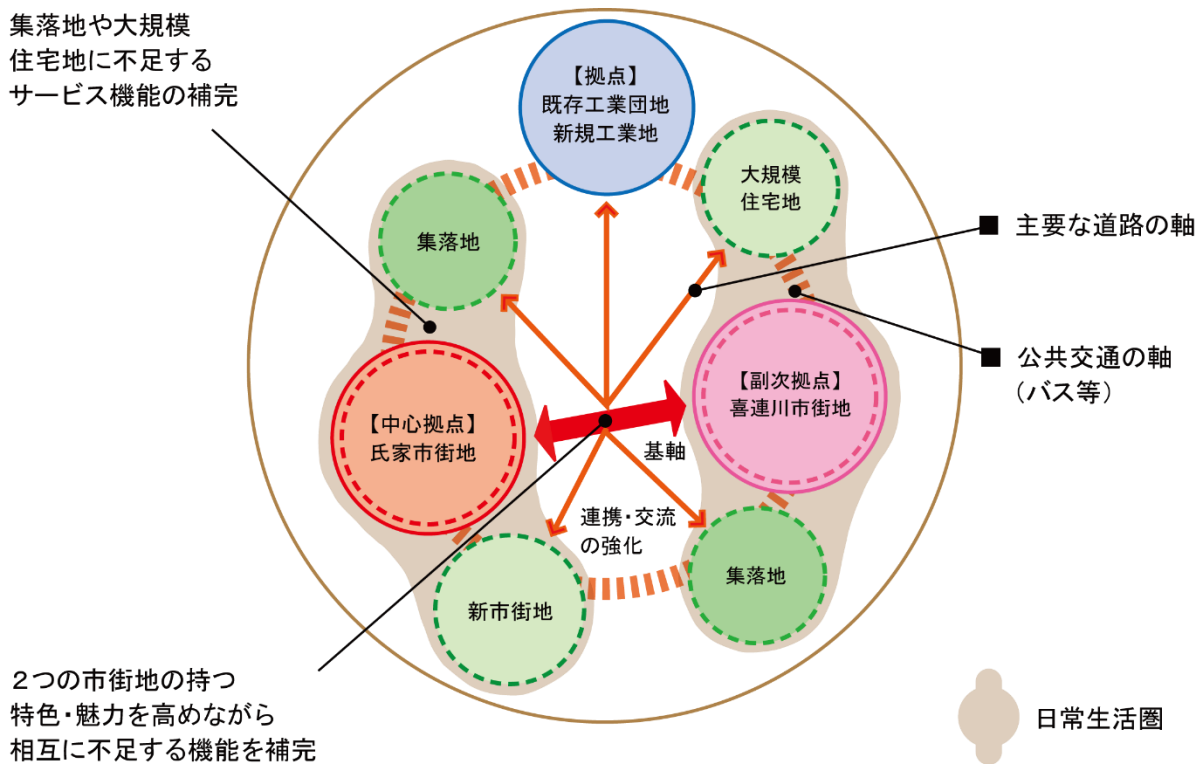
⑦豊かな自然との共生環境づくり

- ・ 緑あふれる丘陵地の森林資源の保全・活用
- ・ 優良な田園環境の維持・育成
- ・ 鬼怒川をはじめとした水辺空間の保全・活用

⑧さくら市の個性や魅力の創出

- ・ ふるさと意識を醸成する桜資源の充実（主要な拠点、軸等における桜並木の形成等）
- ・ 民俗・歴史・文化資源や温泉資源をアピールする環境づくり

《図：さくら市におけるコンパクトシティの形成の概念》



[2つの市街地の機能分担のイメージ(主たる役割と機能)]

【中心拠点: 氏家市街地】

- 居住機能
- 商業サービス機能
- 業務機能
- 医療サービス機能
- 公共・公益サービス機能
- 歴史・文化・交流等の機能
- 公共交通の結節機能

【副次拠点: 喜連川市街地】

- 居住機能
- 身近な商業サービス機能
- 観光サービス機能
- レクリエーション機能
- 公共・公益サービス機能
- 歴史・文化・交流等の機能

## (2) 将来都市構造の設定

### 拠点の形成

#### ○活動中心拠点 ⇨【氏家市街地】

- ・都市活動全般にわたる各種機能が集積する、さくら市の中心としてふさわしい、賑わいのある環境を形成する区域

#### ○生活交流拠点 ⇨【喜連川市街地】

- ・生活全般にわたる各種機能の集積に加え、観光資源や歴史文化資源を活かした、多様な交流が展開される区域

#### ○産業拠点 ⇨【喜連川工業団地、蒲須坂工業団地周辺、河戸地区周辺】

- ・良好な操業環境を有する、生産系・研究開発系産業機能が集積する区域

#### ○スポーツ・文化・レクリエーション拠点 ⇨【氏家総合公園、鬼怒川運動公園、菖蒲沢公園、勝山公園・氏家ゆうゆうパーク、お丸山公園】

- ・市民の交流の場として、ライフスタイルに応じたレクリエーションの環境づくりや、市の貴重な財産となる歴史・文化資源の保全・活用を図る区域

### 軸の形成

#### ○広域幹線軸 ⇨【国道4号、国道293号、JR宇都宮線】

- ・主に広域的な連携や拠点間の連絡を担う路線

#### ○主要な幹線軸 ⇨【(一)下河戸片岡線、(主)那須烏山矢板線、(主)塩谷喜連川線、(一)熊田喜連川線、(主)大田原氏家線、(一)上高根沢氏家線、(一)氏家宇都宮線、(一)花岡狭間田線、(主)今市氏家線、矢板IC方面アクセス路、広域農道グリーンライン】

- ・周辺市町との連携や拠点間の連絡、市内の各地区や主要な施設間の連絡を支える路線

#### ○交流シンボル軸 ⇨【さくらロード】

- ・両市街地（氏家・喜連川）間の交流を支え、双方の拠点性強化や、さくら市としての一体化を促す路線

#### ○水辺の環境軸 ⇨【鬼怒川、五行川、荒川、内川、江川】

- ・市民が身近に自然を感じられる、生態系や景観に配慮した、貴重な水辺空間として保全を図る区域

### ゾーンの形成

#### ○市街地ゾーン ⇨【氏家市街地、喜連川市街地、上阿久津台地地区】

- ・地区の特性を踏まえた、快適で暮らしやすい環境を形成する区域

#### ○工業ゾーン ⇨【喜連川工業団地周辺、蒲須坂工業団地周辺、河戸地区周辺】

- ・良好な操業環境の維持・充実を図り、企業立地の動向を見据えた適切な土地利用を検討する区域

#### ○自然共生ゾーン ⇨【丘陵地、ゴルフ場】

- ・大切な森林資源の維持・保全を基本としながら、身近なレクリエーション（保養や娯楽）の場としての活用などを検討する区域

#### ○田園共生ゾーン ⇨【既存集落地、田園】

- ・安全・安心な食を支える優良な農地の保全や、農家を中心とする集落環境の維持・向上を図る区域

エリアの形成

- 活力創出エリア⇨【喜連川工業団地、蒲須坂工業団地及び河戸地区周辺の区域】
  - ・さくら市の産業の活力をさらに高める、新たな企業立地の調整・誘導を図る区域
- ゆとりとうるおいの居住エリア⇨【上阿久津台地地区、フィオーレ喜連川、桜ヶ丘】
  - ・周囲の自然環境と調和した、特色ある住宅地の形成を図る区域
- 住宅立地の許容・検討エリア ⇨【大野地区、上野地区】
  - ・開発需要の高まりに対応する、良質な住宅地の形成を誘導・調整し、生活基盤施設等の整備・充実を図る区域
- 開発の検討エリア ⇨【蒲須坂駅以东、上阿久津台地以南】
  - ・将来的な開発可能性の動向を見据え、新たな開発の誘導を図る区域

《 図：将来都市構造 》



## 4 重点プロジェクトの設定

□ 将来都市像の実現に向けて重点的かつ先導的に進めるべきプロジェクトの設定

### ■ 活力創造プロジェクト

#### 【プロジェクトの設定】

◎良好な操業環境づくり

⇒

○企業進出の受け皿づくり  
○適切な工業系土地利用の規制・誘導 等

◎適切な規制・誘導手法への見直し

⇒

○用途地域の見直し 等

◎街なか居住の環境づくり

⇒

○氏家市街地・喜連川市街地の特性に応じた道路・公園・下水道等の基盤施設の整備・充実

◎活性化に向けた環境づくり

⇒

○商業環境の充実（買い物のしやすい環境づくり）まちの核づくり  
○公共公益施設等の利用環境の充実 等

◎交通ネットワークの充実・強化

⇒

○さくらロードの整備  
○公共交通機関の利用環境の充実（JR氏家駅・JR蒲須坂駅・路線バス等） 等

### ■ 魅力創造プロジェクト

#### 【プロジェクトの設定】

◎安全・安心のまちづくり

⇒

○市街地における防災性の向上、避難所・避難場所・避難経路の確保、災害時における情報伝達体制の充実  
○交通安全施設等の整備 等

◎自然・生活環境の保全

⇒

○丘陵・田園・河川等の環境や景観を守る仕組みづくり  
○外来種対策と希少動植物の保全 等

◎観光を楽しめる環境づくり

⇒

○観光資源の連携強化  
○桜、民俗・歴史・文化、温泉、道の駅など観光資源の充実  
○お丸山公園の再生 等

◎良質な居住環境の形成

⇒

○面的整備地区等（上阿久津台地地区・フィオーレ喜連川・桜ヶ丘等）における良質な居住環境の維持・充実  
○大野地区・上野地区における住宅開発等の適切な規制・誘導 等

◎協働のまちづくり

⇒

○市民参画・協働の仕組みづくり 等

《 図：重点プロジェクト 》

